

# 「使えるる製品」「使えない製品」

第9回

引き戸

徐々に進む  
高齢者住宅向けの商品開発

## 従来は医療用の引き戸を流用

医療や福祉の建築に欠かせない設備・備品がいくつもある。たとえば、段差のない床、手すり、引き戸、ナースコールなど、これさえ設置しておけば医療・福祉建築として認められるというものだ。

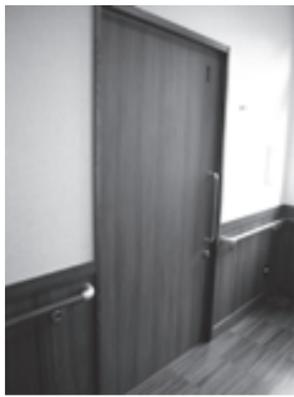
そのなかで、引き戸は車いすを使う施設には必須のアイテムとなっている。日本では古来障子やふすまとして、一般に引き戸が使われてきたが、医療施設にこのように引き戸が使われたのは、いまから30年ほど前に俵くろがね工作所

が「アキユドア」を発売してからである。現在は6、7社が医療用の引き戸を制作しており、三和シャッター工業(株)、文化シャッター(株)が2大メーカーである。

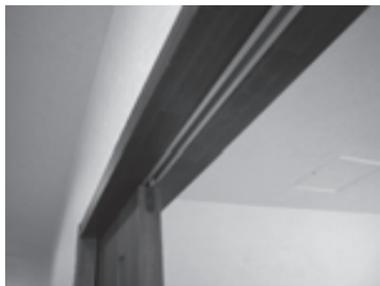
しかしながら引き戸も他の建築製品と同じで、特養向けや高齢者住宅向けに開発されるのではなく、医療用として開発されたものが福祉施設にも使われてきた。くろがね工作所の引き戸の最初のコンセプトが耐久性におかれ、50年間300万回の開閉に耐えられるというものであった。そのため他のメーカーも同様に耐久性を競う方向で製品を開発してきたといえる。



③一般住宅用のアルミ玄関引き戸 (YKK(株)製) も利用可能



④特注木製引き戸 (ゆう建築設計製作)



⑤吊り金物の一例 (すがつね工業(株)製)

真①

この製品は09年に発売されたばかりである。カタログには「高齢者向け住宅玄関ドア」を謳い、「安全への気配り」「窓のデザインの多様性」「鍵の開閉の静かさ」「個人の思い出が飾れるメモリーボックス」の設置など、高齢者住宅専用の製品となっている。価格は一般の鋼板引き戸の15%程度のアップとなる。

②「コマニー」「高齢者福祉施設用木製ドア」(写真②)

引き戸メーカーで、一般の鋼板引き戸より木製引き戸の方が多く売れているメーカーが1社ある。コマニーである。コマニーの木製引き戸はすでに約150施設に使用されている。

しかし、この「木製ドア」という名称は必ずしも正確ではない。木製ドアといえば、すべて木でできているムク材のものと想像されるが、この製品は、MDFボード(木材を細かくカットし接着剤で固めたもの)に木目シートを貼ったものだからだ。とはいえ、木目シートは住宅に多く使われ、一般には本物と区別がつかない場合もあるほど優れた製品である。MDFボードも普通の木のように反ったり収縮することがなく、機能的には優れている。価格は木目鋼板引き戸と同じ程度である。

## 高齢者住宅向けに進みだした製品開発

一方、特養などの個室の引き戸に家庭的な温かさが欲しいということで、広く使われたのが「木目鋼板引き戸」だ。これは鋼板にペンキを塗るかわりに木目をプリントしている。価格は一般の鋼板引き戸より5〜10%高くなる。しかし、製品の内容は医療用に必要とされる機能がそのまま使われており、住宅に近い機能を要求される高齢者住宅用としては違和感を感じるものである。

## なぜ機能を簡略化して価格を下げないのか

高齢者住宅の引き戸は、木目鋼板引き戸やコマニーの木製ドアが主流になっているが、前述のように普通の鋼板引き戸に比べ価格設定は高めだ。医療用に開発された必要機能の延長線上にあり、さらに特殊化することで価格が高くなるのは当然という意識が垣間みられる。

ところが、高齢者住宅の引き戸は300万回もの開閉は必要なく、開閉時の軽さを競う必要もなく、自閉機能が必要でもない。既存の製品に余分な機能を付け加えて、特殊化し、高い値段を設定するのは、事業者や入居者の求めているニーズと乖離するものといわざるを得ない。

そのようななか、コマニーが10年春に現在の木製引き戸の機能を簡略化し、価格を80%程度に抑えた製品を出す模様だ。こうしたコンセプトでつくられた製品こそ、「使える製品」と呼べるだろう。

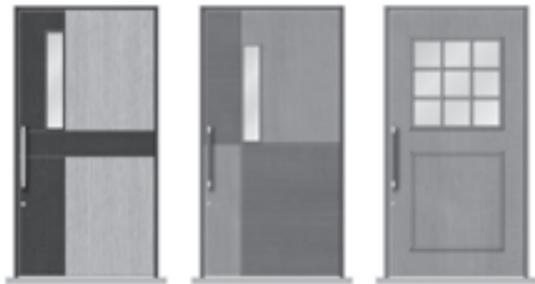
### 高齢者住宅用に工夫を凝らす

私の会社では、医療用引き戸を高齢者施設に流用することに対する不満から、以下のような工夫で対応してきた。

③YKK「一般住宅用アルミ引き戸」(写



①「ヴァリアフェイス」(文化シャッター(株)製)



②木製ドア (コマニー(株)製) のデザイン例

真② 専用の引き戸を製品化するメーカーが出てきた。文化シャッターとコマニー(株)である。この2社は高齢者住宅専用のカタログを製作し、販売に力を入れている。

①文化シャッター「ヴァリアフェイス」(写

真③

木造平屋の高齢者住宅をつくと、居室の引き戸に防火設備を義務付けられる場合がある。その場合には、YKK(株)のアルミ玄関引き戸を使う。木目調でデザインのバリエーションが豊富。下枠もバリフリー仕様で、高齢者住宅に使うのに何ら支障はない。「使える製品」である。

④特注木製引き戸(写真④⑤)

また、より住宅に近い雰囲気を出すためには、木製引き戸を建具屋さんにつくってもらうこともよくある。吊り金物はすがつね工業(株)からさまざまな種類が発売されている。この方式では、本物の木を使うと同時に、金額も鋼板製品の半額程度で済むメリットもある。既製品と違い、建具屋さんの技量によって製品の出来不出来はあるが、高齢者住宅の居室用引き戸にはこうした特注木製引き戸も「使える製品」である。



### 砂山憲一

すなやま・けんいち



1972年SANT-LUC DE TOURNAI 建築学校(ベルギー)留学、1975年京都大学工学部建築系学科修士課程修了、1981年ゆう建築設計設立。主な著書に『医療・介護・建築関係者のための高齢者の住まい事業企画の手引き』(学芸出版社)。最近の執筆に日経ヘルスケア別冊 拡大するシニアリビングVOL3『あなたの病院は増改築できますか? 建築家から見た療養病床転換の問題点』、『病医院のための高齢者住宅開設マニュアル』(老人保健施設部分担当) (ともに日経BP社)